



みんなの富岡・能見台 丘と緑のまちづくり

# IMAGE BOOK





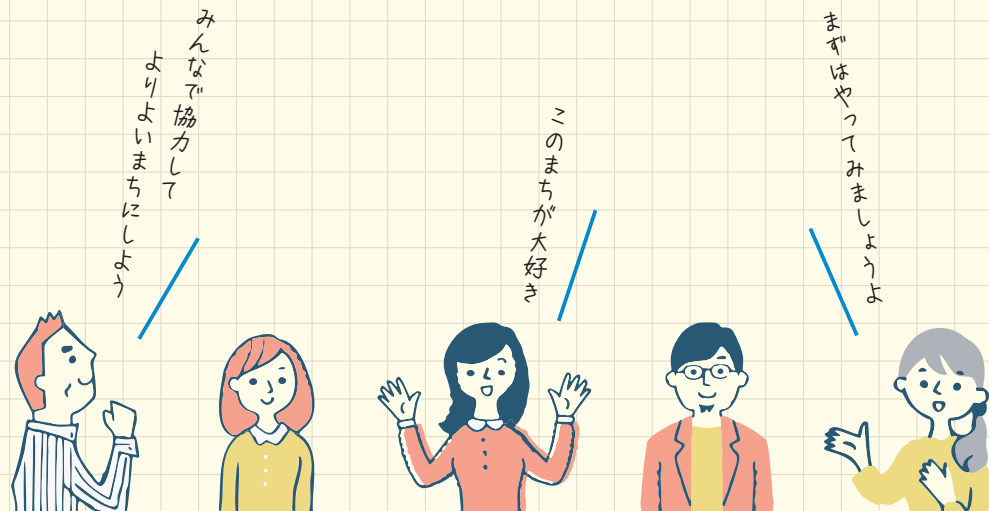


# Tomitaka Noken-dai

これからもずっと  
このまちに住み続けたい。  
居住者がそう考える  
金沢区“富岡・能見台圏”。  
海がある、緑がある、趣がある。  
それ以上に、このまちには  
人の心を掴んで離さない  
なにかがあると思う。



だから、  
まちづくりを自分ゴトにして  
みんなでチカラをあわせて  
取組みませんか。



便利な広域交通アクセス、豊かな自然、整った住環境…  
そんな魅力にあふれた金沢区ですが、  
実は早くから高齢化が進んでいます。  
いま、このまちに求められていることってなんだろう？

これからもずっとこのまちに住み続けたい、  
そういう気持ちをひとつにして、  
みんなでまちづくりに取組むことだと思いませんか。

私たちは、産官学民協働の機会をつくるために  
多くの方々と対話を始めています。  
この「IMAGE BOOK(イメージブック)」は、  
そうした活動のひとつの成果です。  
本書を手にした一人ひとりがまちづくりに参加したくなる…  
そんな期待を込めて編集しました。

### “人の心を掴んで離さないにか”

それは、このまちに住む人の可能性だと思います。  
海がある、緑がある、趣がある。  
それ以上に、“このまちが好き”という人が大勢いる。  
さあ、次に行動を起こすのはあなたの番です。  
「みんなの富岡・能見台 丘と緑のまちづくり」  
略して“おかまち”を一緒にはじめましょう！

プロローグ	1
みんなの富岡・能見台 丘と緑のまちづくりIMAGE BOOKってなに？	6
まちづくりの基本姿勢	7
<b>1. まちの魅力と課題・まちづくりイメージ(方向性)</b>	
まちの魅力と課題	15
まちづくりイメージ(方向性)	17
<b>2. 例えば、こんなことから。地域創発リーディングプロジェクト</b>	
取り組みの全体イメージ	21
1 地域×地元産業で子育てしながらワクワクする仕事ができるプロジェクト	23
2 工作だけじゃない！工作から始まる「よりみちDIY能見台」プロジェクト	25
3 能見台魅力発信プロジェクト	27
4 みんなの能見台ミライ基地プロジェクト	29
5 空き家WANTED！まちのあちこち拠点づくりプロジェクト	31
6 富岡情報プラットフォーム・拠点づくりプロジェクト	33
7 町内会館カフェ テイクオフスペースプロジェクト	35
8 誰もが無理なく移動できる地域交通創出プロジェクト(地域創発・企業主導型)	37
<b>3. 一緒に振り返ってみましょう。これまでの取組経緯</b>	
1 取組の経緯	43
2 取組の全体像	44
3 丘と緑のまちづくりの対象地区	45
4 まちづくり懇談会の実施概要	46
5 まちづくりワークショップの実施概要	47
6 テーマ別ワーキンググループの設置準備	49
7 とみおかーと実証実験の実施概要	50
<b>4. もっと知りたいまちのこと。富岡・能見台圏の魅力と課題</b>	
1 高齢化について   2040年は、超高齢化へ	53
2 住環境について   子育てしやすい環境があります	55
3 コミュニティについて   人材豊富なコミュニティがあります	57
4 交通便利性について   地区内の移動課題があります	59
エピローグ	61

みんなの富岡・能見台  
丘と緑のまちづくり

# IMAGE BOOK

[イメージブック]

ってなに？

みんなの希望が込められた  
**富岡・能見台圏の  
まちづくりの  
羅針盤です！**

このIMAGE BOOKは、横浜市と京急電鉄がまちづくりワークショップやまちづくり懇談会等、3年間(2018.4～2021.3)にわたる地域の皆さまとの対話を経て作成した富岡・能見台圏のまちづくりの羅針盤です。まちづくりの共通の指針かつ、まちづくりに取組むきっかけになることを願って編集しています。家族、友人、知人等、まちづくりに関心のある方々に本書をご紹介いただき、みんなで一緒にまちづくりを進めていきましょう。

## IMAGE BOOKが示す将来

本書は、富岡・能見台圏の10年後の将来イメージを「まちづくりの方向性」として記すとともに、それを実現するために、今後3年間のまちづくりの取組指針として「地域創発リーディングプロジェクト」を掲載しています。各プロジェクトの状況やまちの将来イメージについては、3年間の取組の中で引き続き地域の皆さまや企業、学校、行政と検討を続けていきます。「丘と緑のまちづくり」の対象地区は、P.45を参照してください。



■ 丘と緑のまちづくりの対象地区イメージ

# 地域の大人も子どもも、企業も、学校も、行政も みんな担い手のまち

地域、企業、学校、行政。富岡・能見台圏に関わるすべての人たちがまちづくりの“担い手”です。誰もがまちづくりを自分ごとと捉えて一緒に課題と向き合いながらアレコレ考える。「丘と緑のまちづくり」は、そんな姿勢を目指しています。この基本姿勢は、これまでの取組の中で得られた意見を集約したもので、まちづくりに関わる私たちが共有すべき最も大切な姿勢だと考えています。



私にもなにか  
できるかしら？

未来をつくるのは  
僕たちだ



## まちづくりの基本姿勢 | 1

地域、企業、学校、行政が

### みんなでチカラをあわせて進めよう！

そのために、四者がそれぞれの立場から情報交換できる場を創出します

## まちづくりの基本姿勢 | 2

小さなコトでも

### まずは、できることから実現しよう！

そのために、“まずはやってみる”という「DCPAサイクル」を意識します

## まちづくりの基本姿勢 | 3

場所の魅力を高める

### 場づくりを介してまちを盛りあげよう！

そのために、場所に適した活動を生み出し、活動の輪をひろげていきます

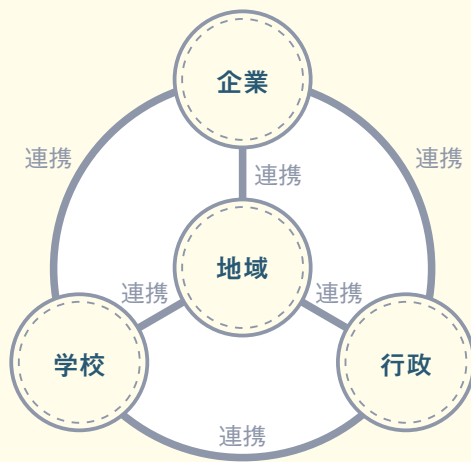


地域、企業、学校、行政が

# みんなでチカラをあわせて 進めよう！

すべての人がまちづくりの担い手として活躍できる環境づくりを進めます。持続可能なまちづくりに取り組む仕組みとして、地域、企業、学校、行政が自らの役割を担い、

それぞれの立場から情報交換できる場を創出します。みんなが参加できる、誰も取り残さないという姿勢は、SDGsの目標達成にも繋がります。



### 想定するまちづくりの担い手

- ① 地域：地区内に居住する方、商店街や地区内で活動するNPO等の市民活動団体等
- ② 企業：民間企業やそこで働く方、京急電鉄、京急グループ企業等
- ③ 学校：横浜市立大学、横浜国立大学他、近隣大学、地区内の小学校、中学校、高校等
- ④ 行政：横浜市・金沢区



小さなコトでも

# まずは、できることから 実現しよう！

今後、プロジェクトを進める際に、まずは小さなコトでも目に見える成果をあげよう！という姿勢で臨み、まちづくりのプロセスを楽しみながら成果をともに喜び合う体験を

共有したいと思います。失敗も経験。それこそがまちづくりの糧になります。失敗を恐れず取り組み、それを基に考えるというサイクルを大切にします。

[一般的に企業の事業推進でよく用いられる考え方]



まずはできることから

[本取組の考え方]



### 本取組のポイント

プロジェクト(事業)を推進しながら取組を評価し、計画の改善を繰り返します

何度も  
おまかせチャレンジ







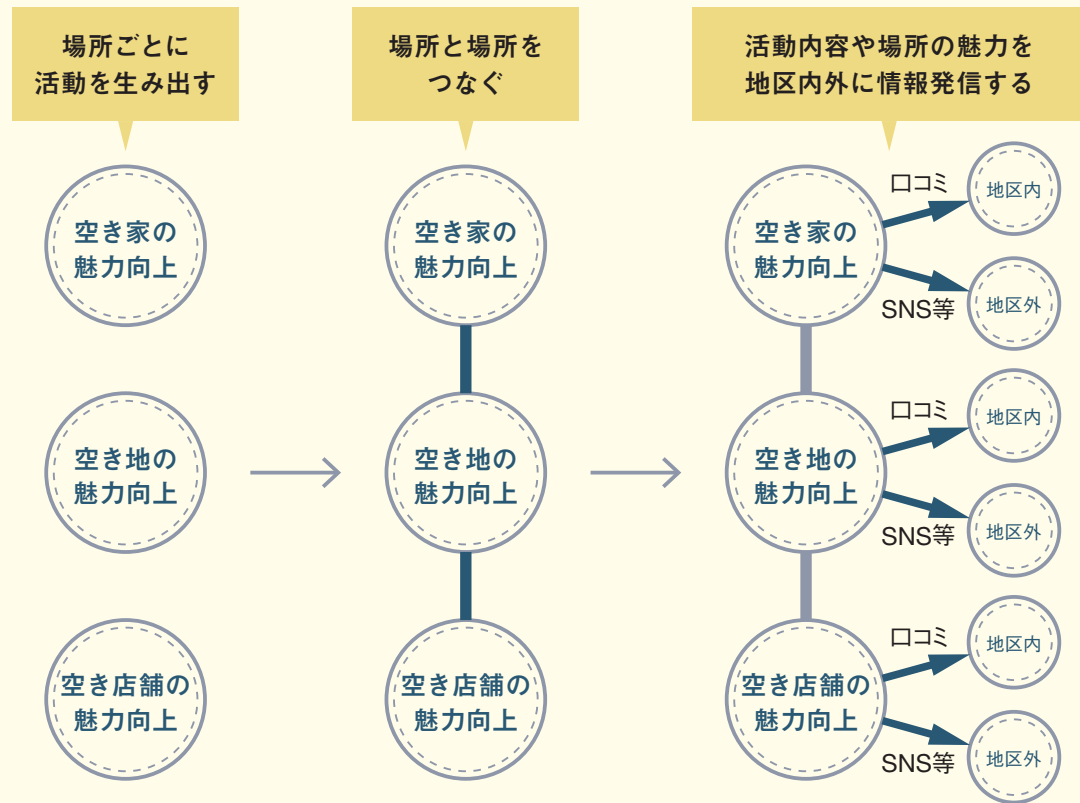
場所の魅力を高める

# 場づくりを介して まちを盛りあげよう！

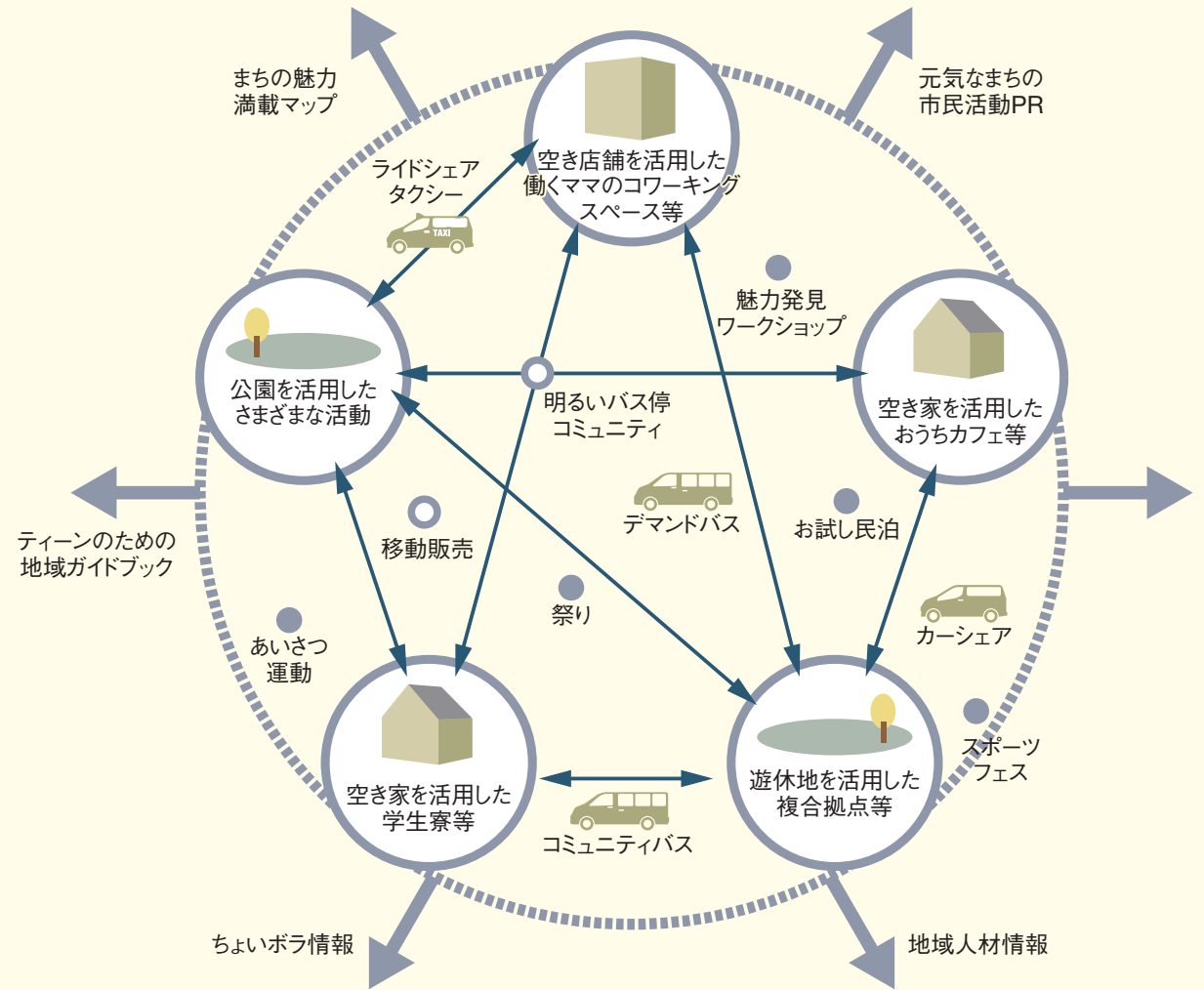
空き家、空き地、空き店舗、公園といった  
まちのあちこちにある**場所の魅力を高め**、  
さまざまな**地域活動を創出**します。場所の  
管理運営にも**地域が関わる等、人から人へ**

**活動の輪をひろげて**いきます。また、場と場  
をつなぐ**移動手段の充実や、活動そのもの**  
の情報発信等、**場を活性化**するプロジェクト  
にも**取り組**みます。

[まちの盛りあげ方のイメージ]



[取組イメージの概念図]



概念図の凡例

- 富岡・能見台圏
- 場づくり(拠点)
- 地域活動
- 移動手段・交流
- 地区内外への情報発信

※ライドシェアタクシー:ライドシェアは、「ライド(乗る)」を「シェア(共有)」することで、一般的には「相乗り」や街中を走っている車を、乗客の輸送に活用する「配車サービス」を指します。  
 デマンドバス:利用者の要求に応じる形で運行するバス。  
 ちよいボラ:仕事や学業、家事の合間等に行う、「ちょっとしたボランティア活動」のこと。

# 1

想いを共有して、  
みんなで同じ未来を見つめながら  
具体的な取組を進めよう！

## まちの魅力と課題・

## まちづくりイメージ(方向性)

みんなでチカラをあわせて取組を進めていくためには、立場の異なる人々が同じ未来を見つめて進んでいかなければなりません。そこで、まちの魅力と課題を抽出し、それを踏まえてみんなで共有する「まちづくりイメージ(方向性)」を考えました。これは、「丘と緑のまちづくり」が目指す10年後のまちの将来イメージを示すものです。



## まちの魅力と課題

地域に関するアンケート調査やまちづくりワークショップ、地域のデータ分析等、これまでの取組を通じて、富岡・能見台圏の魅力と課題は背中合わせであることが見えてきました。まずは、まちの現状をみんなで共有するために、この頁では魅力と課題をまとめました。

※詳しくは、P.51の「4. もっと知りたいまちのこと。」をご参照ください。



まちが抱えている課題は  
チャンスがたくさんだよ  
みんなで改善しよう

まちづくりに  
活用できそうな魅力が  
いっぱいありそうね

若い頃は変化に富んだ  
地勢が魅力だったけれど  
歳をとると移動が大変だなあ



### まちの魅力と課題 1

魅力

駅周辺に商店街があり  
駅を中心に生活利便性が  
担保されている

各種拠点

各施設が駅周辺に偏り  
新しい働き方に対応した  
施設が近くにない

課題

### まちの魅力と課題 2

魅力

公園やグラウンド、  
学校等が他区よりも充実し  
自然も多く子育てしやすい

住環境

公園が活用されていない  
空き家や空き地が  
増えている

課題

### まちの魅力と課題 3

魅力

変化に富んだ地勢が  
魅力的な風景や眺望、  
自然環境を生み出している

丘陵の  
地勢

土地の高低差が  
地域内移動の制約要因と  
なっている

課題

### まちの魅力と課題 4

魅力

定住志向が強く  
地域に対して  
強い愛着をもつ人が多い

情報

地域の環境や  
暮らしの魅力が  
地域内外に伝わっていない

課題

### まちの魅力と課題 5

魅力

町内会の活動が活発  
経験豊富なシニアをはじめ  
多様な人材と活動がある

地域活動

新たな担い手がいない  
子育て世代が活動に  
参加するきっかけが少ない

課題

### まちの魅力と課題 6

魅力

横浜市中心部や  
観光地へのアクセスがよく  
広域交通の利便性が高い

交通

公共交通だけでは  
移動をカバーできない  
地域がある

課題

## まちづくりイメージ(方向性)

「まちづくりイメージ(方向性)」は、富岡・能見台圏が目指すまちづくりの方向をみんなが共有しやすい言葉にしたものです。10年後の理想的な姿を表現した「まちの将来イメージ」と、それを実現するために目指す「まちづくりの方向性(1~6)」で構成されています。

## まちの将来イメージ

# 自在に生きる、 誇りに生きる、 丘と緑のまち。

シゴトも、子育ても、人付き合いも、お出かけも、誰もが不自由なく、思い通りに暮らすことができる。

子どもも、大人も、異なる文化をもつ人も、わけ隔てなく、みんな繋がることできる。

そんな生き方を叶える緑豊かな生活環境を心の底から誇りに思えるまち。

「丘と緑のまちづくり」はそんな未来を目指します。この取組に親しみを込めて“おかまち”と呼んでください。



## まちづくりの方向性 1 シゴトと場づくり

子どもから高齢者まで、その人の特性が活かせる

### 多様多彩な人材が活躍できるまち

新しいライフスタイルにあったシゴトと、それを支える場や環境の創出を目指します

## まちづくりの方向性 2 子育てのしやすさ

まちナカにある資源を活かす

### まちぐるみで子育てしながら一緒に育つまち

公園や空き家等、地域にある資源を“みんな”で活用し、まちの魅力向上を目指します

## まちづくりの方向性 3 住環境の価値共有

魅力が魅力として認識される

### 丘と緑が住む人たちの誇りとなるまち

丘陵の風景や眺望、豊かな自然環境を誇れる価値観の共有を目指します

## まちづくりの方向性 4 魅力発信

必要な情報が必要な人にきちんと届く

### 人を惹きつける情報が発信されるまち

地域の人たちが地域の魅力を自ら再認識して、発信できる仕組みづくりを目指します

## まちづくりの方向性 5 多世代の交流

身近な場所に参加しやすいコミュニティがある

### 多世代が出会い、交流し、共感しあえるまち

多世代が繋がる仕組みと場の創出を通して、コミュニティの活性化を目指します

## まちづくりの方向性 6 多様な移動手段

さまざまな交通手段がスムーズに繋がる

### 誰もが無理なく地域内を移動できるまち

交通手段の多様化や連携を図り、誰もが快適に暮らせる新しい移動のあり方を模索します

# 2.

「丘と緑のまちづくり」は  
ここに掲載されている  
プロジェクトからスタートします！

例えば、こんなことから。

## 地域創発リーディングプロジェクト

地域創発リーディングプロジェクトは、まちづくりワークショップ(P.48参照)から生まれた取組です。ここではこれまで対話を重ねてきたひとつの成果として企画の概要をまとめていますが、これは変化することを前提とした現時点の骨子です。今後は、新しい仲間の意見も取り入れながら、まちの将来イメージの実現に向けて取組を進めていきます。



# 取組の全体イメージ

## プロジェクト一覧と実施場所のイメージ

- リーディング  
プロジェクト

**1**

地域×地元産業で  
子育てしながらワクワクする  
仕事ができるプロジェクト

  - 各種講座、ワークショップが開催できるワークスペース  
や相談スペースがあり、子どもと一緒にいける、行き  
やすい場所
- リーディング  
プロジェクト

**2**

工作だけじゃない！  
工作から始まる「よりみちDIY  
能見台」プロジェクト

  - 活用できる空き家、空き部屋、空きスペース等
  - 学校の教室や公的施設の空きスペース
  - DIYができる屋外空間 ●まちナカ(作品の設置場所として)
- リーディング  
プロジェクト

**3**

能見台  
魅力発信プロジェクト

  - 能見台地区全域(発信する情報の範囲)
  - 駅(アンケートの実施や情報拠点として)
  - 駅前の民間の空間(アンケートの実施や情報拠点として)
  - 地域内の空き家(情報拠点として)
- リーディング  
プロジェクト

**4**

みんなの能見台  
ミライ基地プロジェクト

  - 京急電鉄の社有地 ●各町内会の町内会館
  - 空き家 ●自宅の開放 ●駅(情報発信媒体として)
  - 京急ストア等の人が集まる場所(情報発信媒体として)
- リーディング  
プロジェクト

**5**

空き家WANTED！  
まちのあちこち  
拠点づくりプロジェクト

  - 地域交通駅前発着場の駐車場
  - 商店街の店舗 ●自宅の一室、軒下 ●空き家
- リーディング  
プロジェクト

**6**

富岡情報プラットフォーム・  
拠点づくりプロジェクト

  - 富岡地区全域(発信する情報の範囲)
  - 駅(アンケートの実施や情報拠点として)
  - 駅前の民間の空間(アンケートの実施や情報拠点として)
  - 地域内の空き家(情報拠点として)
- リーディング  
プロジェクト

**7**

町内会館カフェ  
テイクオフスペース  
プロジェクト

  - 町内会で所有している会館を中心としながら、自宅  
でも気軽に参加できるような、オンラインの場づくり  
も視野に入れる
- リーディング  
プロジェクト

**8**

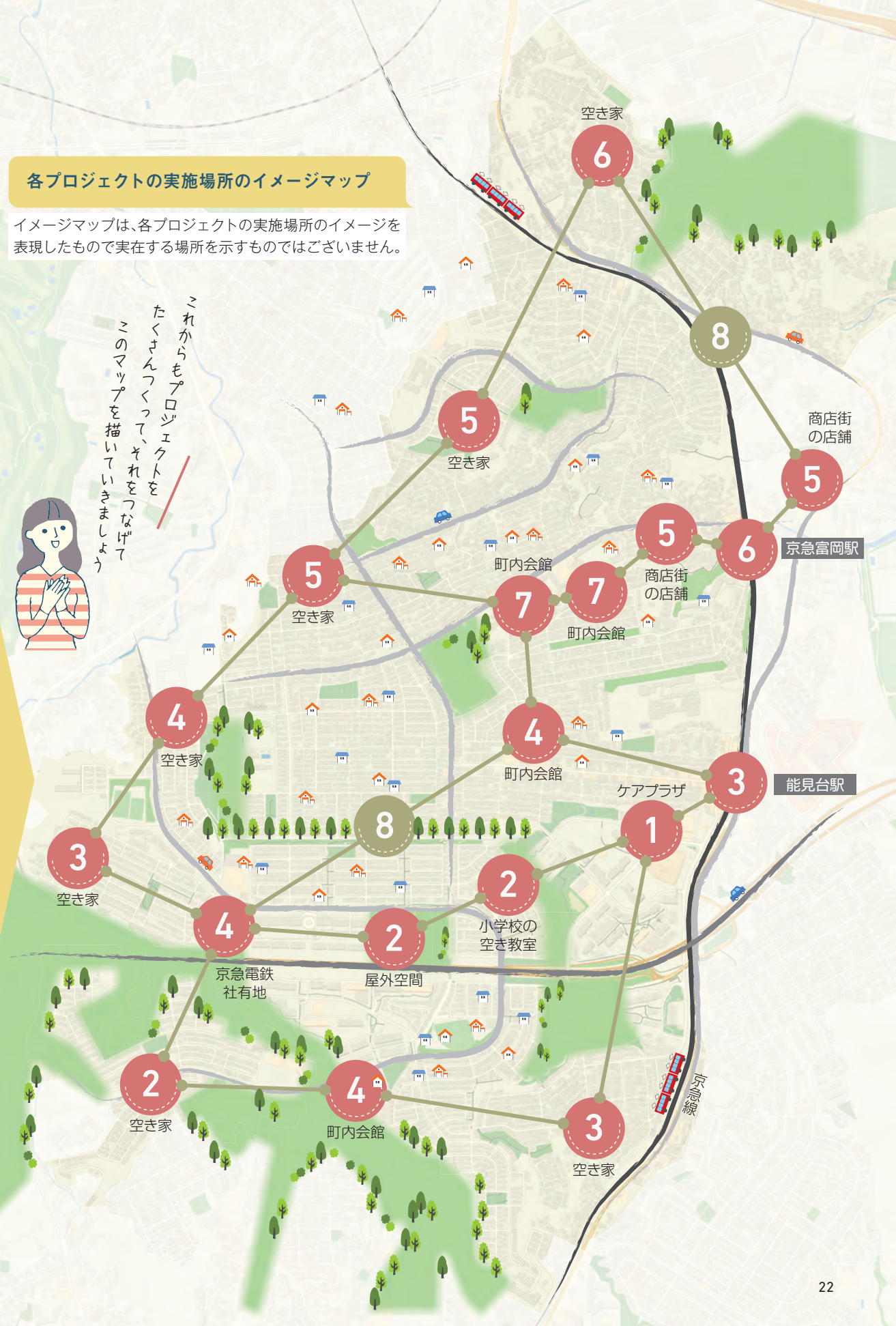
誰もが無理なく移動できる  
地域交通創出プロジェクト

  - 富岡地区
  - 能見台地区

## 各プロジェクトの実施場所のイメージマップ

イメージマップは、各プロジェクトの実施場所のイメージを表現したもので実在する場所を示すものではありません。

これからプロジェクトを  
たくさんつくって、それをつなげて  
このマップを描いていきましょう



関連するまちづくりの方向性  
P.17-P.18参照

1 シゴトと場づくり

2 子育てのしやすさ

地域創発リーディングプロジェクト① 能見台地区

# 地域×地元産業で 子育てしながらワクワクする 仕事ができるプロジェクト

「子育てしたい環境」「高いスキルを持った女性」  
「工業団地をはじめとする地域の企業」等の地域資源を活かして  
このまちにしかできない豊かな働き方を生み出そう。

実現したいまちへの波及効果

地域で「自分らしく働くこと」と、「子育て」が  
両立でき、地域の人々の循環が生まれます。



プロジェクトの概要

「働く」と「子育て」を一緒に考えたい。

地域には、さまざまなスキルを持って働いていた女性がいます。そうした女性たちから「子連れで働けたり、まちぐるみで子育てを応援してくれる環境があればまた働きたい」という声をよく耳にします。しかし、子どもを預けて都心に勤めると、環境の良いこの地で子育てする意味が半減してしまいます。このプロジェクトは、従来の部分的な仕事のマッチングだけではなく、高いスキルを持った女性の能力や子育ての環境を整えることにより子育て中の女性が活躍できるような環境をつくっていきます。シニアや若年世代の働き方にも展開できるプロジェクトです。

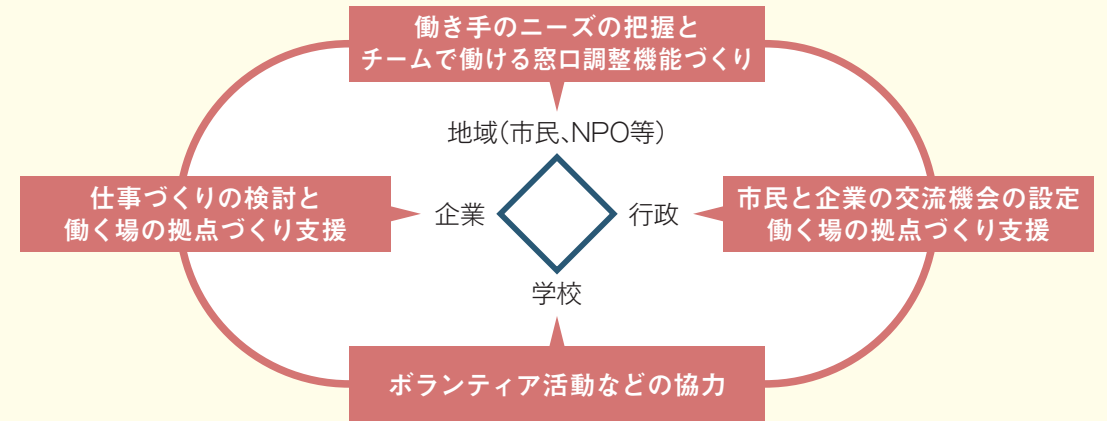
プロジェクトの成果イメージ

- 地元企業の若手と地域で働きたい人の交流の場が定期的で開催され、それぞれのニーズにあった「働き方」が生まれる。
- プロジェクトチームができ、新しい金沢区のブランドが生まれる。



やりがいを感じながら  
子育てできるわ

プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 働き手の仲間を集める

地域で子育てしながら働きたい人に呼びかけ（口コミ、保育園・幼稚園、小学校等でPR）、仲間を集い、どのような働き方や子育てをしたいか、働き手のニーズやスキルを把握する。

STEP2 企業と働き手の交流会を実施する

働き手のニーズを企業に伝えるとともに、企業のニーズを把握することを目的に、ざっくばらんな交流会のような場を設け、お互いの理解を深めていく。

STEP3 働き手の体制をつくる

チームで仕事を進められるよう、窓口、仕事の細分化、分配、集約方法を検討し、適宜、必要な講座を行う。依頼があれば随時業務を受注し、プロジェクトを推進しながら体制を整える。

STEP4 働く場の拠点をつくる

最終的には子育てしながら働ける拠点をつくる。それまでは、会議室等を借りて集まる。交通の便は良いが、子どもが安全に過ごせるような場所が拠点になると良い。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

企業側のニーズ把握、企業側へのアイデア提供

女性のスキルアップ支援、メンタルトレーニング

企業と子育て世代のマッチング

働く場の拠点となるスペースの提供

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます



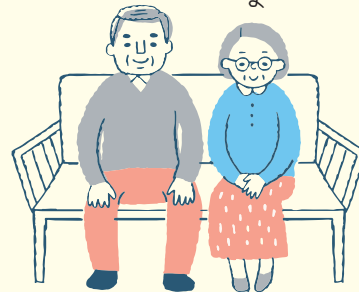


地域創発リーディングプロジェクト② 能見台地区

# 工作だけじゃない！ 工作から始まる「よりみちDIY 能見台」プロジェクト

まちの中にある空き家、空き部屋等を活用して子どもから大人まで気軽に楽しく“Do It Yourself(DIY)”できる場をつくろう。

孫たちが造ったようよ



実現したいまちへの波及効果

空き家の活用だけでなく、DIYを通じてまちへの愛着や人との交流、繋がりを育みます。

プロジェクトの概要

イベントやワークショップを実施しながらDIY拠点をづくりたい。  
まずはDIYを学べるワークショップを行います。地域に住むDIY経験者等が講師になれば交流や繋がりが生まれ、男性の地域進出のきっかけになります。例えばベンチ等、まちにあると便利なモノをつくり設置します。自分のつくったモノがまちに点在するとまちへの愛着がわくものです。また、老若男女がワクワクでき、子どもや女性も参加しやすいような季節ごとの企画も用意します。解体してよい空き家を壊す体験イベント等も開催し、家の構造を学びながら廃材を回収します。学習テーマとして防災等を組み合わせ、災害時に役立つ内容とします。

プロジェクトの成果イメージ

- 飛び入り参加OKで、ワイワイしながらみんなでベンチや遊具をつくるDIYイベントが行われる。
- つくったものを販売・交換して楽しむコミュニティが生まれる。



プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 DIYイベントの開催

子どもが気軽に参加できるよう、ハロウィンやクリスマスの時期等に、手芸や工作ができるイベントを開催する。

STEP2 DIYワークショップの開催

まちに関わるものづくりをテーマに、老若男女が参加できるワークショップを開催する。例えば、京急ストア前の広場にはベンチがなく、単なる通路となっているため、このスペースにみんなが滞在できるベンチをつくり設置する。

STEP3 人材や場の情報収集

STEP1や2のイベントと並行してDIYの拠点づくりに向けた情報を募る。空き家を活用したい人、活用してほしい人、提供してくれる人、企業の情報等を集める。

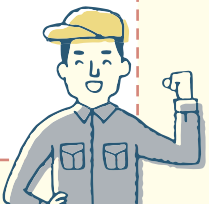
STEP4 DIY拠点を設ける

活用できる空き家が確定したら「よりみちDIY能見台」拠点づくりの企画・検討を始める。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

- 電子工作、プログラミング
  - イベント参加者、周辺大学生や学生の勧誘
  - 工作の手伝い、DIYの道具の提供
  - よりみちDIY拠点となる場の提供
- あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます





地域創発リーディングプロジェクト③ 能見台地区

# 能見台 魅力発信プロジェクト

地域内外の人に能見台の魅力を伝えるために  
情報提供の基盤をつくらう。



実現したいまちへの波及効果

能見台ブランドが広く知られ  
若い人が行きたくなるまち、住みたいまちになります。

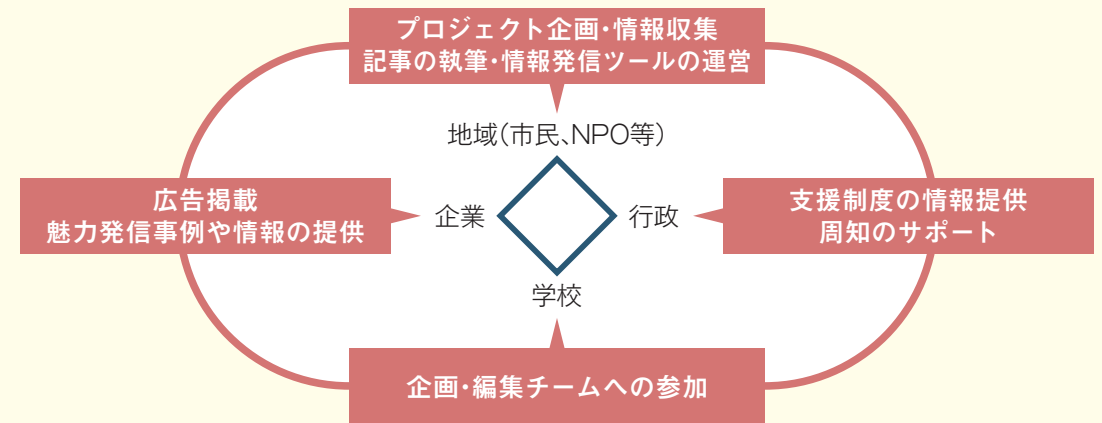
プロジェクトの概要

「能見台の人」に焦点を当てて、お店や暮らしの情報を発信したい。  
地域外から能見台に訪れた人や若い世代、地元住民に向けてデジタル媒体を活用して、地元の個店情報や地域色の強いお店等を紹介します。まずはFacebookグループの活用やGoogleマップ等に魅力スポットをマーキングするなど、できることから小さくスタートして基盤をつくります。情報誌等の紙媒体も作成して、地元のお店等に設置させていただきます。いずれは、まちの情報を集約したホームページや地元のお店のクーポンがもらえるアプリ等をつくりたいと思います。

プロジェクトの成果イメージ

- 写真やコメントなど、メンバーの得意な方法で能見台の魅力的な情報を集めている。
- 新聞やマップをつくったり、駅に貼り出したり、ホームページに載せたり、大勢の人に見てもらえる方法で情報が発信され、能見台の良さが広く知られている。

プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 企画・編集チームの立ち上げ

お店、大学生、ママさん、デザイナー、区、京急、地域情報を発信している人等、多世代の多様なメンバーで構成された編集チームをつくり、まずは立ち上げへの想い等を共有する。

STEP2 情報発信コンセプトの策定

誰を対象に、どのような目的で、どのような情報を、どのように発信するか等を検討する。

STEP3 発信コンテンツの整理

能見台の魅力として発信できる情報を集め、整理する。発信する魅力を発見するための、イベント等を実施することも検討する。

STEP4 既存ネットワークとの連携

既存の地域情報誌、SNS上の地域コミュニティ等のプラットフォームやネットワークとの繋がりをつくり、連携できるか模索する。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

魅力スポットの写真撮影や投稿、マップづくり

高齢者に対する媒体(情報)の紹介

商店街や企業との連携の橋渡し

SNS運営の協力、ノウハウ提供

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます

あまり知られていない  
良いお店があるんだ



関連するまちづくりの方向性  
P.17-P.18参照

1 シゴトと場づくり

5 多世代の交流

6 多様な移動手段

地域創発リーディングプロジェクト④ 能見台地区

# みんなの能見台 ミライ基地プロジェクト

京急電鉄の社有地等に核となる拠点を設置するとともに、周囲のサテライト拠点をづくり、地域交通でつなごう。

みんなに来れば誰かに会えるから楽しいわ



### 実現したいまちへの波及効果

地域で人が出会い支え合うための場(拠点)を介して、地域で行われるコミュニティ活動がより豊かに育まれます。

### プロジェクトの概要

京急電鉄の社有地等に核となる拠点を設置したい。

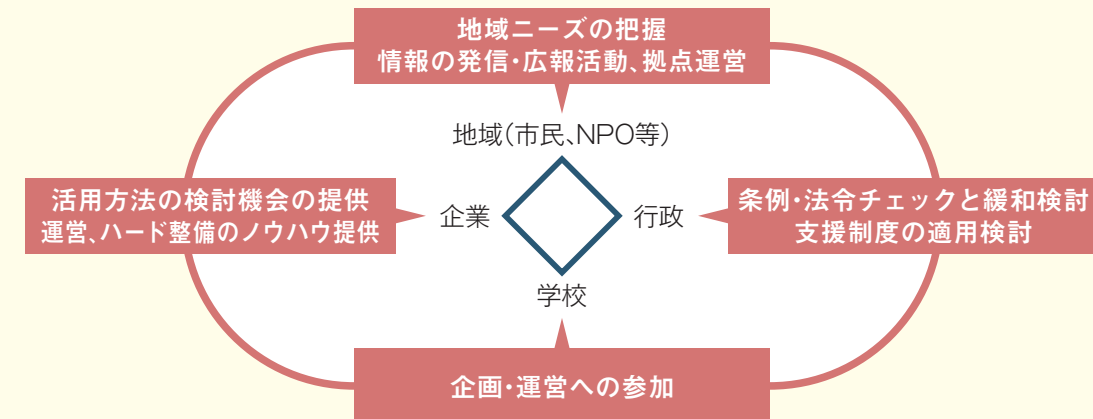
施設としての収益性や事業性もしっかり考え、集客できる工夫や地域活動の拠点としての役割の両立を図ります。50~150人程度が集まるイベントができるスペースや、大小の話し合いや会議、打合せができるミーティングスペース、地域で働く場、サテライトオフィス等にも利用できるコワーキングスペース等を検討していきます。情報発信の拠点としての機能も充実させるとともに、空き家や自宅、各町内会の町内会館を活用して、小さな集まりやコミュニティづくり、交流が生まれるようなサテライト拠点も設置し、各拠点を地域交通でつないでいきます。

### プロジェクトの成果イメージ

- 会合、おしゃべり、仕事、読書、編み物、なんとなくいるだけ等々、地域みんなが集まれ、いろいろな使い方ができる拠点がたくさんできる。
- 各拠点を地域の人々が自分のできる範囲で管理している。



### プロジェクトを実現するための四者の役割



### プロジェクトを実現するためのプロセス

#### STEP1 拠点づくりに関する意見交換

プロジェクトを通じて地域・企業・学校・行政が同じテーブルにつき、実現に向けた課題や条件等を共有しながら、話し合いを進める。

#### STEP2 ニーズ調査と情報発信

アンケートを掲載したチラシ配布や回覧板、駅の掲示板等を活用しながら、拠点に対するニーズ調査や情報発信を進める。

#### STEP3 イベント的(お試し)オープン

拠点づくりに向けて、社会実験を行う。空き地(京急の社有地や京急ストアの一角)を活用しながら拠点の最終形がイメージできるイベントを試験的に実施し、地域の反応を伺う。

#### STEP4 拠点オープン

運営にも地域が関わる仕組みづくりとともにみんなの拠点となるミライ基地づくりを行う。

### こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

出張相談や講座の開催、講師の紹介

空き地でのキャンプ企画・運営

ハードの設計・整備、起業支援

オープンする拠点のオフィス利用

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます



関連するまちづくりの方向性  
P.17-P.18参照

- 1 シゴトと場づくり
- 2 子育てのしやすさ
- 5 多世代の交流
- 6 多様な移動手段

地域創発リーディングプロジェクト⑤ 富岡地区

# 空き家WANTED!

## まちのあちこち 拠点づくりプロジェクト

このまちで「買物・食事・働く・子育て・交流」したいを  
まちのあちこちに眠る多様な拠点を探してつくり  
地域交通で結ぶことで実現しよう。

あの空き家、まちの拠点に  
使えないかしら



### 実現したいまちへの波及効果

地域でいろいろなことができると楽しくなる。  
そんな環境をつくり、空き家対策にも貢献します。

### プロジェクトの概要

多様な活動ができる拠点をつくりたい。

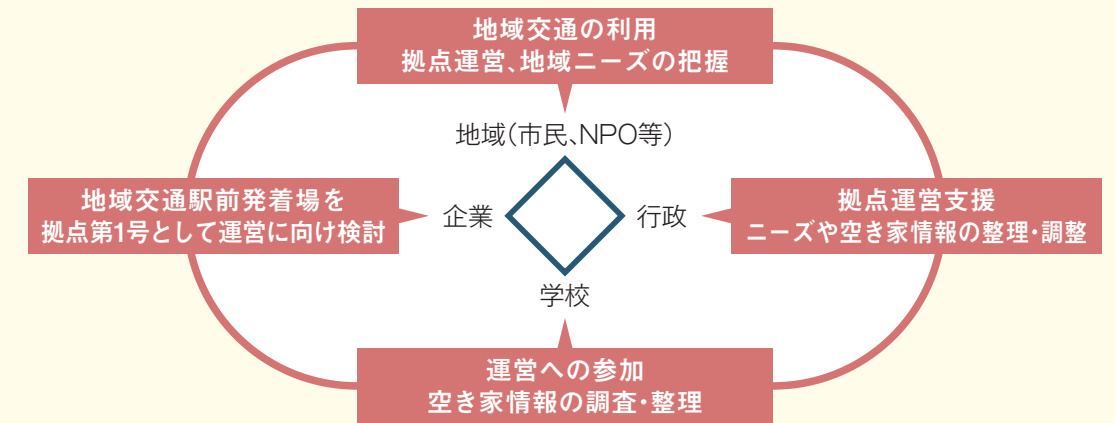
大規模な拠点ではなく、既存の店舗、地域の空き家、自宅の一室や軒下のちょっとしたスペース、駐車場等を活用して複数の拠点をつくります。例えば、「お互い様の子育てができる」「さまざまなスキルを持った人が活躍できる」「気軽に立ち寄りおしゃべりできる」「まちの情報がある」「コワーキングスペースがある」「お弁当が食べられるまちの食堂」等。地域の人たちの交流機会が増えることで、集まる空き家の情報量も増加が見込めます。空き家の活用が広まることで、空き家になる前の段階からの情報入手が期待できます。

### プロジェクトの成果イメージ

- 駅前にあちこち拠点ができる。そこでは、おしゃべりやまちの情報交換、新しい地域交通等の情報収集ができる。
- まちのあちこちに活動内容が違う多様なタイプの拠点ができ、新しい地域交通がそれらをつないでいる。



### プロジェクトを実現するための四者の役割



### プロジェクトを実現するためのプロセス

- STEP1 拠点第1号運営チームの立ち上げ**  
地域交通の駅前発着場の駐車場を、拠点第1号として運営するため、地域、企業、行政でプロジェクトチームを立ち上げる。活動内容、開催頻度、運営体制、広報等を検討する。
- STEP2 拠点第1号オープン**  
地域交通の利用登録ができる休憩スペースを用意してニーズ調査や空き家情報の収集を行う。空き家情報については、専用のプロジェクトチーム立ち上げを検討する。

- STEP3 情報発信**  
拠点第1号で集まったニーズや情報を発信して、拠点第2号づくりをめざす。
- STEP4 あちこち拠点が広がる**  
まちのあちこちに活動内容が違う多様なタイプの拠点をつくり、拠点同士を地域交通で結び、誰もが気軽に行けるようにする。

### こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

- 空き家、空き店舗情報の提供
  - 小さく始める起業支援
  - 仲間づくりサポート、口コミや周知活動
  - プロ並みにつくれる料理教室
- あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます





関連するまちづくりの方向性  
P.17-P.18参照

3 住環境の価値共有

4 魅力発信

地域創発リーディングプロジェクト⑥ 富岡地区

# 富岡情報プラットフォーム・拠点づくりプロジェクト

地域の情報を発掘・発信する仕組みや拠点をつくり  
住民同士で地域情報を共有するとともに  
富岡の魅力を広く発信しよう。



実現したいまちへの波及効果

地域の繋がりや暮らしがもっと豊かに  
みんなに住みたいと思われるまちになります。

プロジェクトの概要

地域住民向けに情報を発信したい。

地域住民の視点で情報を集約・整理・共有できるプラットフォームをつくります。基本はリアルタイムで地域の情報を得られるようデジタルを活用し、デジタル媒体を使えない人も情報が得られるよう、紙媒体での展開も心がけます。若年層の発信力や町内会のネットワークを活かす等、地域のさまざまな人がプロジェクトに関わることで、地域内の繋がりも豊かにできます。将来は情報発信の拠点をまち中に設置し、カフェのようにくつろいで交流できる空間をつくりたいと思います。但し、継続していくためには、お金を生む仕組みづくりも必要です。

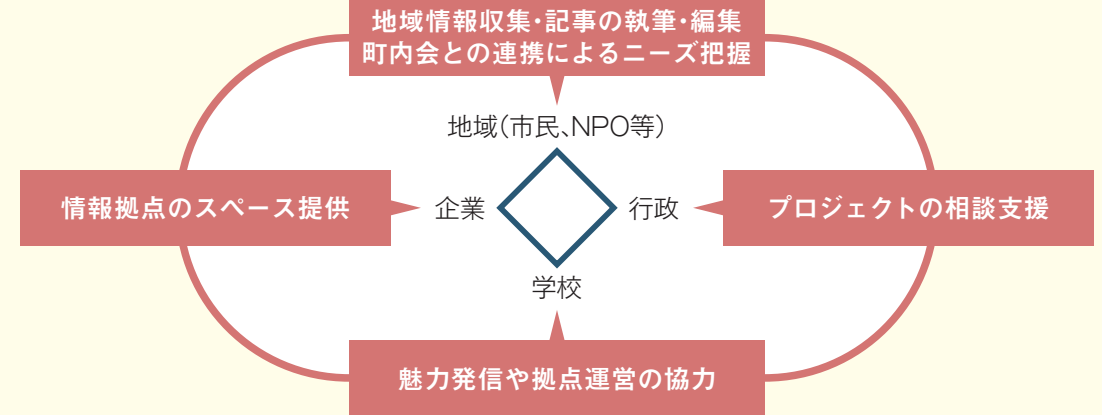
プロジェクトの成果イメージ

- まちで起きている出来事、活動、魅力ある人の情報がきちんとまちの人に伝わっている。
- 高齢者にも若者にも伝わるように、紙面を使ったり、SNSを使ったり、駅の掲示板を使ったりして工夫しながら発信している。

意外と知らない  
地元情報が満載ね



プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 地域ニーズを調べ仲間を集める

店頭でのシール投票アンケートや、回覧板の活用等の形式を組み合わせる。運営に関心を持つ地域の仲間を集め、ライターを育成する。町内会や企業等との連携体制をつくる。

STEP2 プラットフォームの枠組みを考える

プラットフォームの主な対象、発信媒体、既存の地域ホームページの活用方法等を検討する。継続的な運営を図るため、市民で自走できる運営体制やお金を生む仕組み等を検討する。

STEP3 継続的に情報を発信する

富岡地区の自然、景観、歴史等の地域資源を活かし、地域の魅力や暮らしの情報を継続的に内外へ発信する。

STEP4 長期的には情報拠点を つくる

観光案内所のように、まちの情報を集約した情報拠点を人の流れが多い駅周辺につくると良い。また、まちの魅力を発信できる拠点が空き家等を活用して地域のさまざまな場所にできると良い。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

ニーズ調査、コンセプトづくりの協力

記事のライティング、ライティング講座の開催

情報発信の協力(回覧板、SNS発信、掲示板等)

富岡の歴史資料や情報の提供

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます



関連するまちづくりの方向性  
P.17-P.18参照

2 子育てのしやすさ

5 多世代の交流

地域創発リーディングプロジェクト⑦ 富岡地区

# 町内会館カフェ テイクオフスペース プロジェクト

地域の町内会が所有する会館を活用して多世代が繋がる場(テイクオフスペース)をつくろう。オンラインを活用したバーチャルでも実施してみよう。

実現したいまちへの波及効果

顔見知りを増やすことで若年層や働く世代が地域活動に参加するきっかけをつくります。



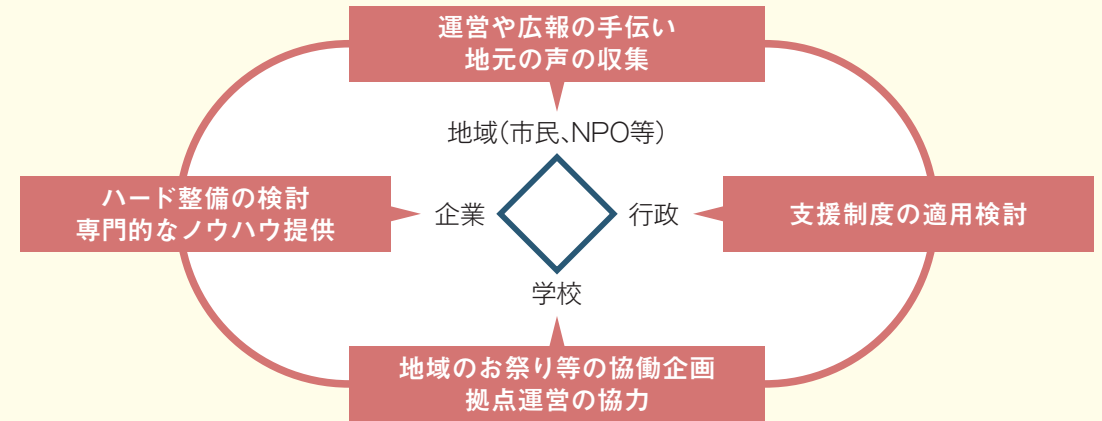
プロジェクトの概要

人が集まり、そこからコミュニティ活動が生まれる場をつくりたい。町内会館をカフェのような場として活用し、若年層も地域コミュニティに参加できるような場をつくります。しがらみなく集まれる場で偶発的に生まれた交流から地域活動に誘い合う環境を創出するために、多世代が気軽に立ち寄れるカフェ的な雰囲気を持たせます。同時にリアルでは参加しづらい世代のためにオンラインで集まれる場も用意し、自宅から参加できるよう工夫します。情報が集約するリアルなプラットフォームがあり、ICTを活用して集約された情報が早く、広く伝達されるようなシステムをつくり、利用料は限りなくゼロに近づけることを理想とします。

プロジェクトの成果イメージ

- 人が楽しく集まればどんな場所でも「カフェ」になる。町内会館を活用してそんな場所をつくり、そこから小さなコミュニティが生まれる。
- コロナの時代の「カフェ」としてオンラインも上手に使っている。

プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 コンセプト固め

町内会同士、地域、企業、学校、行政が連携して町内会館を活用するための企画、コンセプトづくりを行う。町内会で合意形成を進める。

STEP2 お試しカフェの実施・効果検証

時間を限定して子ども、中高生等、世代別に貸し出すところからスタート。同時にオンラインでお試しカフェの企画を進め、普段町内会館を訪れない人向けに交流の機会をつくる。

STEP3 実践を重ねる

多世代交流等の開催パターンも繰り返して実践を重ねる。

STEP4 会館以外のスペース探し

さらなるコンテンツの工夫とブラッシュアップを進めながら、並行して「空き家WANTED! まちのあちこち拠点づくりプロジェクト」と連携して横展開を模索する。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

企画・コンセプトづくり

お試しカフェの運営および運営協力

会館以外のスペース情報の収集

自宅の庭や駐車場の提供、家具や椅子、人工芝の貸出

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます

コミュニティは、まちの人たちと気軽に話せて気分転換になるよ



地域創発リーディングプロジェクト⑧

# 誰もが無理なく移動できる 地域交通創出プロジェクト

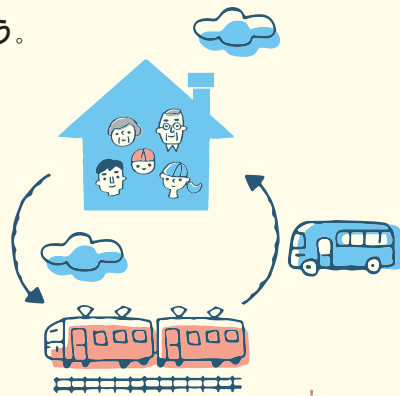
(地域創発・企業主導型プロジェクト)

地域交通は、運送手続き(運輸支局への許認可)や車両・ドライバーの手配など、地域の皆さまだけでは成立が難しい事業です。富岡地区においては2018年度より、新たな地域交通事業＝「とみおかーと」の実証実験に取り組んできました(P.50参照)。この実験は、事業主体である京急電鉄と協力者である横浜国立大学・横浜市を中心に実施しており、これまで地域の皆さまにはアンケートやヒアリング、周知等にてご協力いただいています。プロジェクトの事業採算性は厳しいことが予測されますが、実験の過程で得られた知見や情報を広く活用し、地域の皆さまと一緒に「とみおかーと」の事業化に向けて挑戦することで地域内移動の支援を目指します。

急坂部や道幅の狭いエリアが多くある富岡地区において  
日々のさまざまな移動負担を減らし、地域内移動を支援する  
持続可能な地域交通サービス構築を目指そう。

実現したいまちへの波及効果

移動負担を減らし、誰もが暮らしやすく  
働きやすい持続可能なまちをつくりたい。



プロジェクトの概要

誰もが無理なく移動できる「地域の足」を構築したい。

子どもから高齢者まで、誰でも乗り降りしやすく、利用しやすい車両や乗降場所、サービスを設計した交通サービスを提供します。

地域交通サービスを介して、まちの情報や魅力の発信を行います。

沿道の商店や医療施設、地域活動拠点を結び、富岡地区内における人の交流を活性化します。

プロジェクトの成果イメージ

●とみおかーとをはじめとした新しい地域交通が安定して運行している。

プロジェクトを実現するための四者の役割



プロジェクトを実現するためのプロセス

STEP1 とみおかーと事業化案の検討

2018年度より実施した「とみおかーと実証実験」の実施内容を振り返り、事業化に向けたサービスモデルの検討を行う。

STEP2 地域との連携構築

事業モデル案構築に向けて地域関係者と協議し、事業性向上に向けた地域事業者との連携スキーム、サービスを構築する。(地域内事業者の送迎サービス連携、広告・送客連携等)

STEP3 実証実験等の実施

地域と連携した事業モデル案の実証実験を実施する。

STEP4 最適な運営体制の構築

富岡地区にあった最適な地域交通のあり方を地域と共有し、地域に望まれる持続可能な地域交通サービスの提供に向けた運営体制を構築する。

こんなことがやりたい、できます、という方はいませんか(仲間募集)

ご自宅前、店舗前等、乗降場所の提供

地域見守りや防犯、防災の観点での活用

通院や訪問介護等での活用

荷物の運搬、商品お届けサービス等の事業活用

ドライバーとしての参加

地域交通の運営(ボランティアシップ)

あなたがやりたいこと、できることをメモしておこう

がやりたい、できます





リーディングプロジェクト以外にも  
あなたが思いついたまちを良くする取組や  
アイデアをメモしておきましょう！



# 3.

地域創発リーディング  
プロジェクトを創出するまでに  
3年間の歳月を費やしてきました。

一緒に振り返ってみましょう。

これまでの取組経緯

本書を手にした方が取組の全体像を把握できるよう、「まちづくり懇談会」や「まちづくりワークショップ」の活動等、これまで3年間の経緯をまとめました。まちづくりワークショップから生まれた地域創発リーディングプロジェクトは、「みんなでチカラをあわせて進めよう！」という基本姿勢で進めていくことを考えました。

## 66 1 取組の経緯 99

「丘と緑のまちづくり」は、横浜市と京急電鉄が2018年7月に締結した「公民連携のまちづくりの推進に関する連携協定」をきっかけに始めました

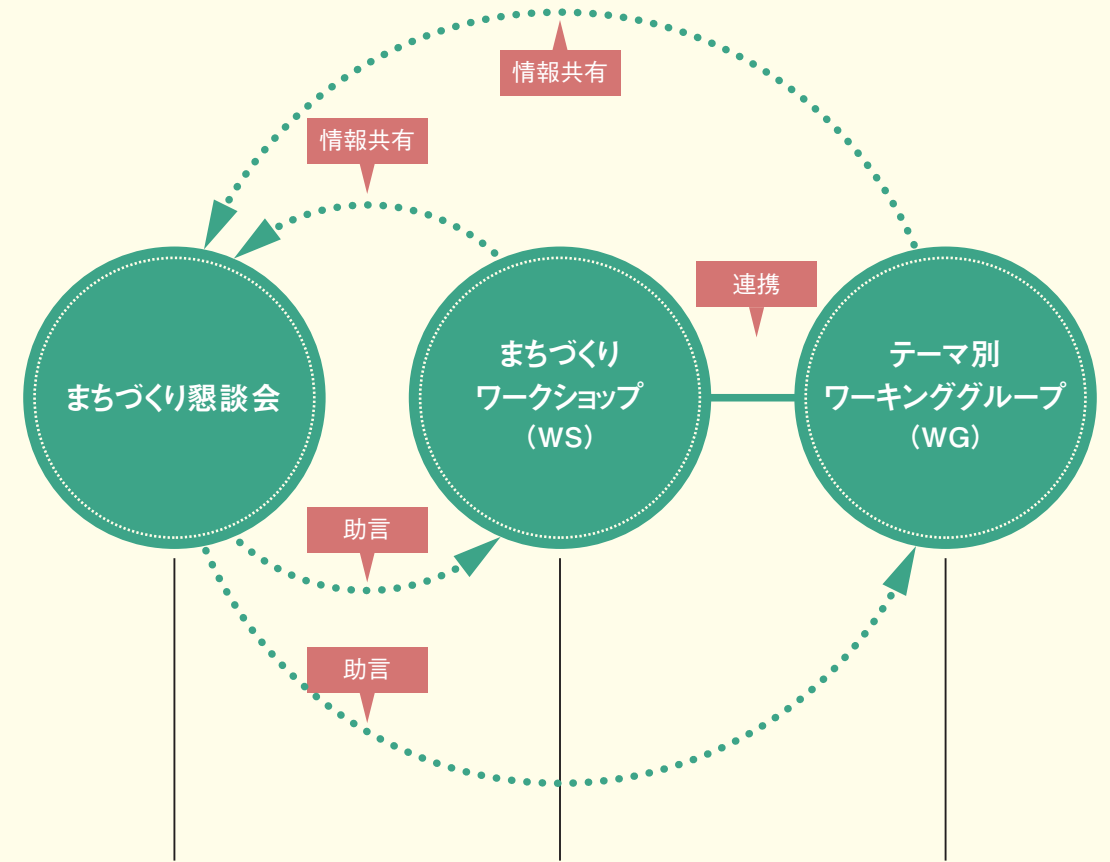
富岡・能見台地区は、良質な住環境が維持されている一方で若者の流出や住民の高齢化が顕著な地域です。横浜市と京急電鉄は、沿線地域の魅力を向上させるまちづくりに協働して取組むために、「公民連携のまちづくりの推進に関する連携協定」を締結しました。これを機に地域の居住者や学校等が参画し、さまざまな活動が動き出しました。「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査から

始まり、その後、地域の方々とともに“まちづくりのタネ”を探すことを目的とした「まちづくりワークショップ」がスタートしました。2020年度は取組開始から3年目の節目となり、タネを具体的なプロジェクトとして推進していくための動きを加速させました。「まちづくり懇談会」を開催し、今後、「テーマ別ワーキンググループ」も設置予定。まちづくりの推進体制が整ってきています。

取組年表

	横浜市	京急電鉄
1983.05		京急ニュータウン金沢能見台を分譲開始
1993.01		京急ニュータウン富岡を分譲開始
2017.03		空き家のリノベーション付きサブリース事業を開始
2017.09		暮らしやすい地域づくりに向けたアンケートを実施
2018.07	【連携協定】京急沿線（横浜市南部地域）における公民連携のまちづくりの推進に関する連携協定を締結	
2018.10	【交通実証実験】富岡地区においてグリーンスローモビリティを用いた移送サービス実証実験を実施 P.48参照	
2019.01	【まちづくり検討】能見台地区においてまちづくりワークショップを開始 P.46参照	
2019.11	【交通実証実験】富岡地区において協働・共有型モビリティシステム構築に向けた実証実験を実施 P.48参照	
2020.02	【まちづくり検討】富岡地区・能見台地区においてまちづくりワークショップ STEP1を開始 P.46参照	
2020.10	【交通実証実験】富岡地区においてとみおかと実証実験を実施（無償） P.48参照	
2020.11	【まちづくり検討】富岡地区・能見台地区においてまちづくりワークショップ STEP2を開始 P.46参照	
2020.12	【まちづくり検討】まちづくり懇談会を設置 P.44参照	
2021.01	【交通実証実験】富岡地区においてとみおかと実証実験を実施（有償） P.48参照	

## 66 2 取組の全体像 99



【情報共有・意見交換の場】  
まちづくりWS、テーマ別WGの進行方法や実施内容について意見交換を行っています。

- 【参加メンバー】
- 地域代表
  - 商店会代表
  - 学識経験者
  - 有識者
  - 行政
  - 京急電鉄

【アイデアを深める場】  
地域の魅力や課題を出し合い地域創発リーディングプロジェクトの企画づくりを行いました。

- 【参加メンバー】
- 富岡地区に居住する皆さま
  - 能見台地区に居住する皆さま
  - 両地区および周辺地域で活動する皆さま（すべて公募）
  - 横浜市立大学生ほか

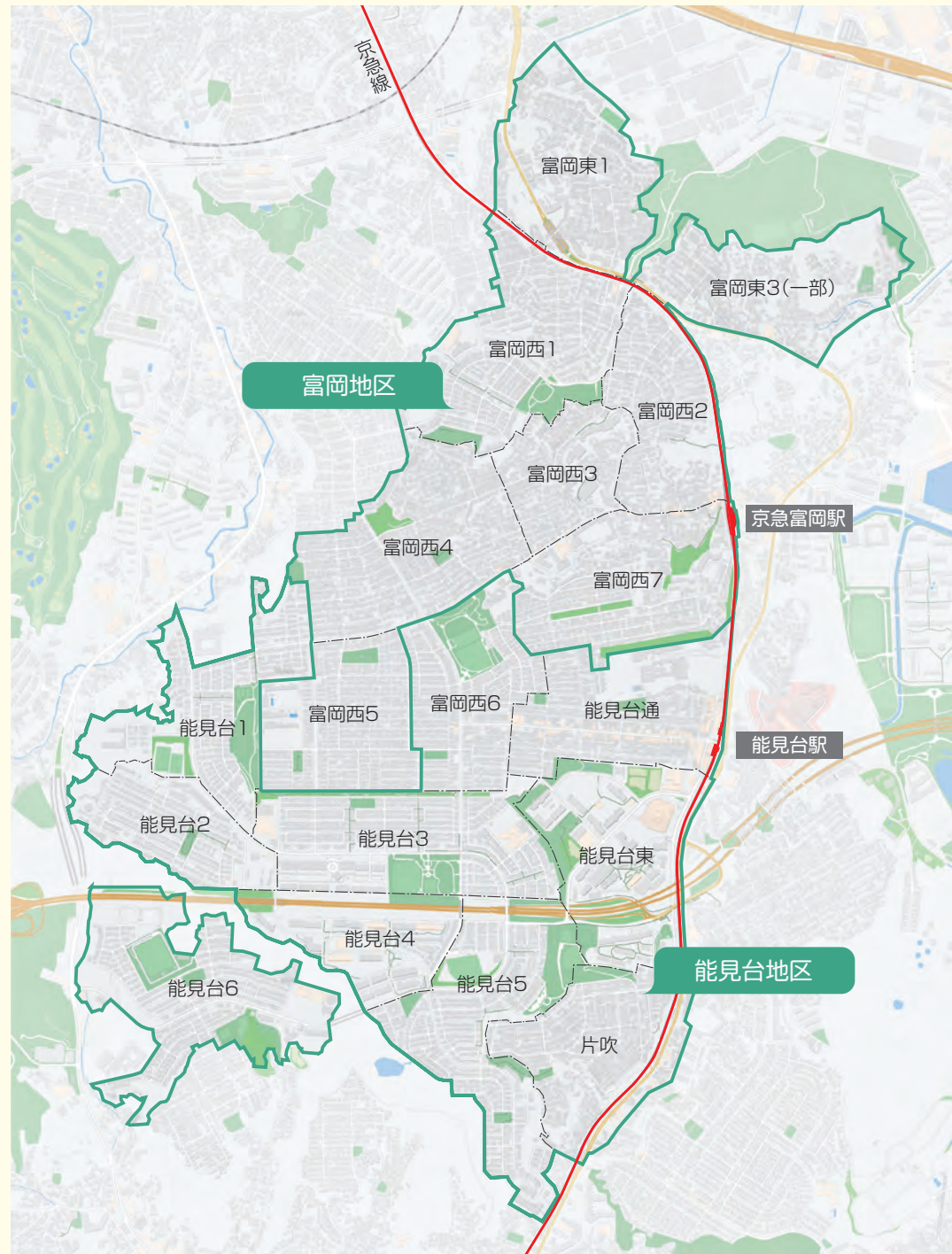
【重点テーマの検討の場】  
重点的に取組むべきテーマとして「拠点」「交通」の両テーマを先行して検討しています。

- 【参加メンバー】
- 学識経験者
  - 有識者
  - 行政
  - 京急電鉄
  - 民間企業ほか

2021年度からプロジェクトを本格的にスタート  
みんなでチカラをひとつにして取組を進めます

## 66 3 丘と緑のまちづくりの対象地区 99

【富岡地区】富岡東1丁目・3丁目の一部、富岡西1丁目～5丁目、富岡西7丁目  
 【能見台地区】富岡西6丁目、能見台通、能見台東、片吹、能見台1丁目～6丁目



## 66 4 まちづくり懇談会の実施概要 99

地域代表、商店会代表、学識経験者、有識者、行政、京急電鉄が一同に会し「丘と緑のまちづくり」について話し合いを行いました

「まちづくり懇談会」は、地域代表、商店会代表、学識経験者、有識者、行政、京急電鉄がまちづくりの方向性や取組の基本姿勢、ワークショップやテーマ別ワーキンググループの実施等について話し合う場です。第1回は、地域子どもたち(小・中学生、高校生)にも取組へ参画してもらうことの重要性や「丘と緑

のまちづくり」が行政の計画とは異なる役割を担えることへの期待感等のご意見をいただき、取組の方向性が見えてきました。第2回は、本書の作成に対して具体的なご意見をいただき、誌面づくりに活かしました。今後も四者協働に向けたまちづくりの情報交換・推進の場となるよう継続して実施していきます。

### 実施スケジュール

第1回	実施日時	2020年12月4日(金) 9:30～11:30
	会場	金沢区役所 会議室
第2回	実施日時	2021年3月9日(火) 9:30～11:30
	会場	金沢区役所 会議室、一部の方はオンラインによる参加
	議題	まちづくりの基本姿勢 / IMAGE BOOKの作成 / テーマ別ワーキンググループの設置
	議題	IMAGE BOOKの素案について

### まちづくり懇談会のメンバー(分野・所属)

地域代表	富岡第一地区連合町内会 副会長 富岡第三地区連合町内会 会長 富岡第三地区連合町内会 事務局長 富岡西・能見台地区町内会長連合会 会長 能見台地区連合町内会 会長 能見台地区連合町内会 事務局長 片吹団地自治会 会長 ※金沢中部地区連合町内会区域
商店会代表	能見台駅前商店会 会長 富岡商和会 会長 富岡みどり会商店街 会長
学識経験者	横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 教授(都市デザイン) 横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 教授(子育て環境) 横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 特任准教授(都市交通)
有識者	横浜国立大学 客員教授(地域連携) 株式会社地域計画研究所 代表取締役(地域づくり)
行政	横浜市 都市整備局 企画課 金沢区 区政推進課
企業	横浜市 都市整備局 地域まちづくり課 京浜急行電鉄株式会社 開発統括部

学識経験者、有識者の  
( )内は専門分野



## 66 5 まちづくりワークショップの実施概要 99

地域に暮らす人たちが、まちづくりを自分ごととして推進できるプロジェクトの創出に向けて、「まちづくりワークショップ」を実施しました

「まちづくりワークショップ」は、地域の方々とともに“まちづくりのタネ”を探すことを目的に開始しましたが、参加者の積極的な取組姿勢から具体的プロジェクトの企画づくりへと発展しました。初年度、能見台地区連合町内会の皆さまの協力のもと実施したワークショップでは多くの気づきが得られ、翌年の対象エリアの拡大に繋がりました。その際に、参加者を公募することで幅広い世代の方々に参加して

いただくこともできました。ワークショップSTEP.1で挙げられたまちの魅力や課題は、富岡・能見台地区ともに共通点が多く、その結果を踏まえ、STEP.2で具体的に取組むまちづくりのアイデア出しを行いました。その中から各地区で先行して取組む内容を絞り込み、地域創発リーディングプロジェクトとしてまとめました。

### 実施スケジュール

STEP.0  
全4回

実施期間 2019年1月26日(土)～2019年4月27日(土)  
会 場 能見台地域ケアプラザ  
参 加 者 能見台地区連合町内会役員

能見台地区連合町内会の皆さまと、魅力と課題を抽出しながらまちの理想像を描きました。「まちづくりイメージ」や「まちづくりの基本姿勢」に繋がる貴重な意見が多く得られ、翌年度以降の取組方針が定まりました。

STEP.1  
全3回

実施期間 2020年2月2日(日)～2020年10月17日(土)  
会 場 富岡地域ケアプラザ・能見台地域ケアプラザ・横浜市立大学YCUスクエア1階ピオニーホール  
参 加 者 公募による富岡・能見台圏居住者および同地区で活動するの方々、横浜市立大生

公募により集まった幅広い世代の方々に横浜市立大生も加わり改めて魅力と課題を抽出しながらまちの理想像を描きました。それを基に、地域、行政、企業が協働できそうなまちづくりのタネ(アイデア)について話し合いを重ねました。

STEP.2  
全3回

実施期間 2020年11月29日(日)～2021年2月28日(日)  
会 場 富岡地域ケアプラザ・能見台地域ケアプラザおよび書面開催  
参 加 者 公募による富岡・能見台圏居住者および同地区で活動するの方々、横浜市立大生

具体的なプロジェクトの創出に向けてSTEP.1でまとめたまちづくりのアイデアを深めました。自らが積極的に関わることでできそうな取組を確認し、プロジェクトを実現するためのプロセスや担手の役割等をまとめていきました。





## 66 6 テーマ別ワーキンググループ(WG)の設置準備 99

(拠点づくりWG/交通WG)

### 地域創発リーディングプロジェクトのさらなる検討・推進体制として 2つのテーマ別ワーキンググループの設置を検討しました

これまで実施してきた「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査の結果や、まちづくりワークショップで挙げられた意見、各地区の基礎分析結果等から、富岡・能見台圏が優先して取り組むべき主な課題として「拠点」と「交通」が浮かびあがってきました。そうした経緯から、ワークショップと並行して、「テーマ別ワーキンググループ」の設置に向けた検討部会を立ち上げ、各テーマと親和性の高い

民間企業や学識経験者と連携し、ワーキンググループのあり方や可能性について、意見交換を行いました。その後、ワークショップの進捗を鑑みながら検討した結果、テーマ別ワーキンググループは、地域創発リーディングプロジェクトを具体的に検討・推進する体制として設置すべきという結論に至り、まちづくり懇談会で議題とし、ご理解をいただきました。

#### テーマ別ワーキンググループの設置に向けた動き

##### 交通WG(準備会)

実施日時 2020年1月27日(月) 14:00~15:30  
会場 京急電鉄 本社会議室  
議題 既存交通のあり方や理想のモビリティ(移動性)実現に向けた意見交換

##### 拠点づくりWG(準備会)

実施日時 2020年4月7日(火) 9:00~11:00  
会場 京急電鉄 本社会議室  
議題 各企業が考える富岡・能見台圏に必要な機能に対する意見交換



## 66 7 とみおかーと実証実験の実施概要 99

急坂部や狭い道が多く、バス停や鉄道駅へのアクセスが容易でない地域があるという課題解決を目的として、「とみおかーと実証実験」を通じて新しい地域交通のあり方を模索しました。

富岡地区では、坂の上り下りを伴う移動のしづらさや負担が課題となっていました。この課題を解決するためには、地域に適した持続可能な交通手段を検討する必要がありますが、これには地域の皆さまに加え行政や事業者、学識経験者も交えて実験や検証を通じた改善を図るなど、長期的な課題として取り組んでいく

必要があります。とみおかーと実証実験は、その足掛かりとして地域の交通事業者である京急電鉄と横浜市の協働により実施する地域交通の実証実験です。本実験は2018年度より無償での実験を重ね、2020年度には有償実験を行いました。2021年度は過去の実験結果を踏まえて最適なルート等を設定して事業化の最終検証を行います。

#### 実施スケジュール

第1回	実施期間	2018年10月29日(月)~11月7日(水) (10日間)
	実施地区	富岡第一地区
	運行方式	乗合型による定路線運行(定員3名)/登録制/無料
第2回	実施日時	2018年11月9日(金)~11月18日(日) (10日間)
	実施地区	富岡第三地区
	運行方式	乗合型による定路線運行(定員3名)/登録制/無料
第3回	実施日時	2019年11月15日(金)~12月2日(月) (18日間)
	実施地区	富岡第一地区・富岡第三地区
	運行方式	乗合型による定路線運行2路線(定員3名、6名)/登録制/無料
第4回	実施日時	2019年12月3日(火)~12月20日(金) (18日間)
	実施地区	富岡第一地区・富岡第三地区
	運行方式	乗合型による定路線運行・オンデマンド運行(定員3名、6名、8名)/登録制/無料
第5回	実施日時	2020年10月11日(日)~12月20日(日)
	実施地区	富岡第一地区・富岡第三地区
	運行方式	乗合型による定路線運行・オンデマンド運行(定員3、4名)/登録制/無料
第6回	実施日時	2021年1月10日(日)~2月28日(日)
	実施地区	富岡第一地区・富岡第三地区
	運行方式	乗合型による定路線運行・オンデマンド運行(定員3、4名)/有料

### TOMI CART

とみおかーと実証実験



※写真は、2021年1月10日(日)~2月28日(日)に運行していた車両です。

# 4.

まちづくりの第一歩は  
現状分析から。私たちのまちの状況を  
詳しく把握しよう！

もっと知りたいまちのこと。

富岡・能見台圏の魅力と課題

まちづくりワークショップに取り組む事前準備として、対象地区の居住者を対象とした「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査や、「人口・世帯数の動向」等のデータ分析を行いました。そうした分析結果を抜粋して掲載しています。新たな取組やプロジェクトの立ち上げに向けた参考資料としてご覧ください。

1 高齢化について

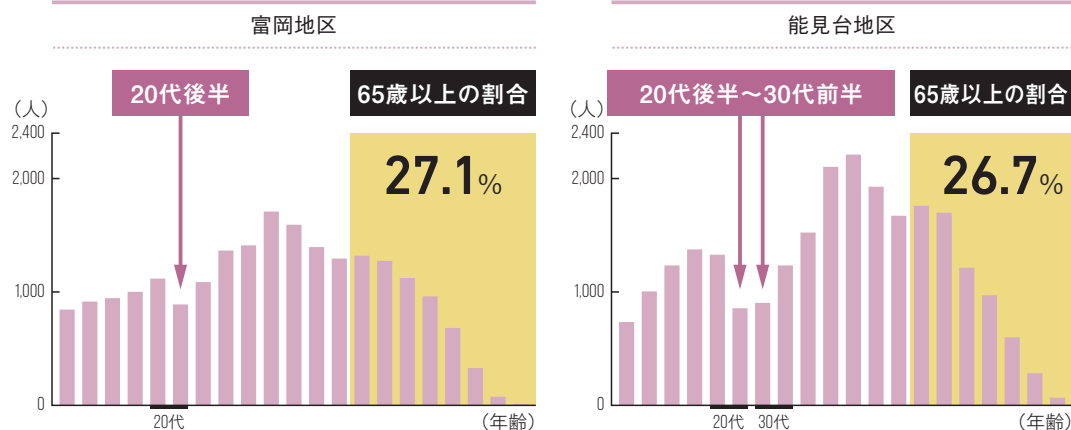
## 2040年は、超高齢化へ

金沢区は、市内で唯一、2040年に高齢化率が40%に達すると予測されています。富岡・能見台圏においても高齢化率の上昇が見込まれます。

いま、求められること

65歳以上の高齢者が安心して暮らせる環境を整えるとともに子育て世代が定住したくなる魅力の創出、発信が求められます。勾配のきつい富岡地区は、高齢者の移動手段が課題となります。

地区内の住民の年齢構成



※年齢は5歳刻み 出典:「町丁別年齢別人口」(住民基本台帳による、2019年9月末現在)

両地区ともに20代後半が少なく、能見台地区は30代前半も少ない。高齢化率は横浜市平均24.8%を上回っています。

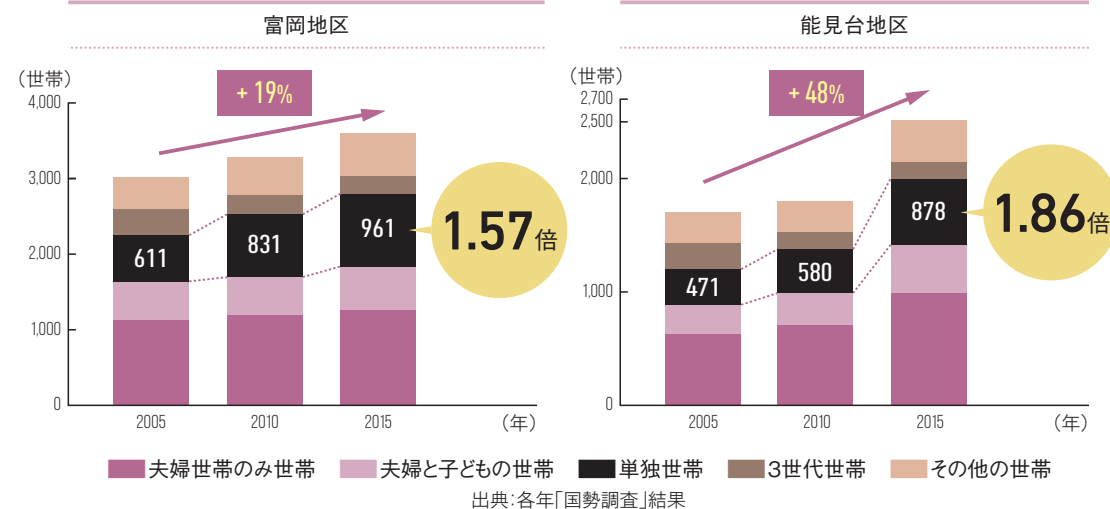
金沢区の高齢化率の推移

2015年			2040年(推計)		
人口総数	65歳以上人口	高齢化率	人口総数	65歳以上人口	高齢化率
202,229人	54,217人	26.8%	155,216人	62,010人	40.0%

単位:人 出典:「横浜市ホームページ」(2015年基準時点)

金沢区全体では、2040年に人口が約4分の3に減少し、5人に2人は、65歳以上の高齢者になると予測されています。

地区内の65歳以上の高齢者がいる世帯数の推移



■ 夫婦世帯のみ世帯 ■ 夫婦と子どもの世帯 ■ 単独世帯 ■ 3世代世帯 ■ その他の世帯  
出典:各年「国勢調査」結果

両地区ともに高齢者世帯数は増加し、中でも単独世帯が大幅に増加しています。





## 2 住環境について

### 子育てしやすい環境があります

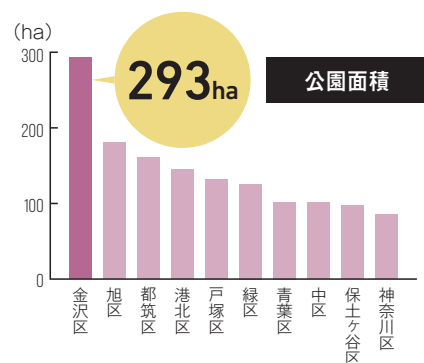
金沢区は、充実した公園施設や豊かな自然環境を背景に子育てしやすい環境が整っています。そうした環境は富岡・能見台圏においても担保されています。

## いま、求められること

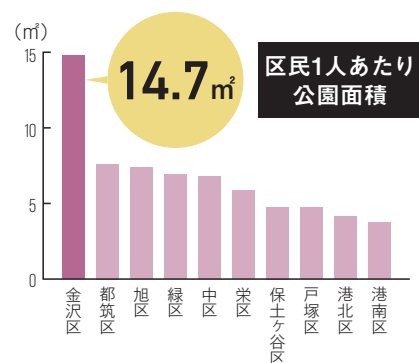
公園や自然など、地域にある資源を活かして子育て世代を惹きつけるモノ・コト・シクミをつくりだし、地域の魅力として編集し、発信する必要があります。

### 横浜市区別公園面積と区民一人あたりの公園面積

区別公園面積



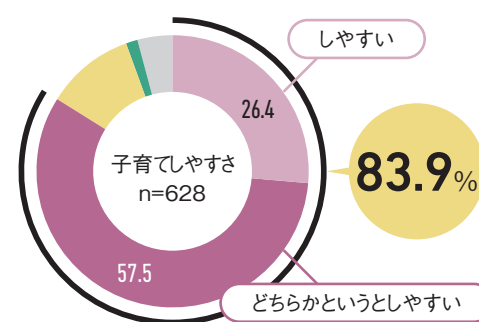
区民一人あたりの公園面積



出典：「金沢区統計要覧(2019-2020)」

### 子育てに関する実感と保育所概況

子育てしやすさ



保育所概況(2019年)

保育所施設数(公立)	4施設
保育所施設数(私立)	36施設
保育所施設数(総数)	40施設
在籍児童数	3,140人
待機児童数	0人

出典：「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査結果・「金沢区統計要覧(2019-2020)」

地区内には富岡西公園や能見台中央公園をはじめとした多くの公園が点在。金沢区の区民一人あたりの公園面積は、他区の約2倍以上あります。

居住者の8割以上が子育てしやすい環境が整っていると考えています。保育所施設も充実し、待機児童数は0人です。

### ワークショップで多く挙げられた意見(参考)

出典：富岡・能見台まちづくりワークショップ第1回のまとめ  
※グループワークのテーマ：まちの現状の良いところと気になるところを出し合おう



緑や公園が多く、子育てしやすいと認識されている一方で、公園を利用する人が少ないことが指摘されています。



※「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査概要◇調査対象地区および調査票配布数/金沢区能見台1~6丁目、能見台通、能見台東、富岡西5~6丁目、片吹の1万世帯に配布。京急OBの18世帯に郵送◇調査実施方法/投函、留置、郵送回収における自記方式◇調査実施時期/2017年10月30日(月)~11月15日(水)◇最終回収日 1月4日(木)◇回答回収数および回収率/641(回収率6.4%)※内無効回答13

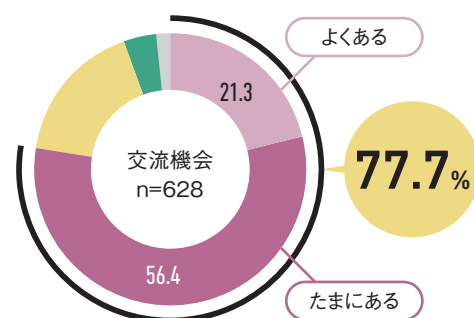
### 3 コミュニティについて

## 人材豊富なコミュニティがあります

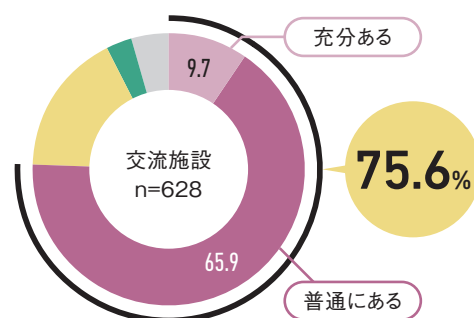
多くの方が交流、遊び、学びの機会や場があると感じています。  
また、地域の中では、経験豊富な人材が多いという特徴も共有されています。

#### 交流機会・交流施設に関する実感

交流機会の有無



交流施設の有無



出典:「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査結果

居住者の7割以上が人々との交流機会や交流施設が充実していると考えています。例えば、能見台地区の自治会町内会加入率<sup>※</sup>は約91.2%です。

<sup>※</sup>横浜市平均:約72.4% 金沢区平均:約80.8%(市内第2位) 出典:金沢区統計要覧(2019-2020)・データdeかなざわ(2019年4月発行)



#### ワークショップで多く挙げられた意見(参考)

出典: 富岡・能見台まちづくりワークショップ第1回のまとめ  
※グループワークのテーマ: まちの現状の良いところと気になるところを出し合おう

現役を引退した高齢者に専門知識や技術を持つ方が多く、“人材が豊富”であることがまちの魅力(資源)と考えています。

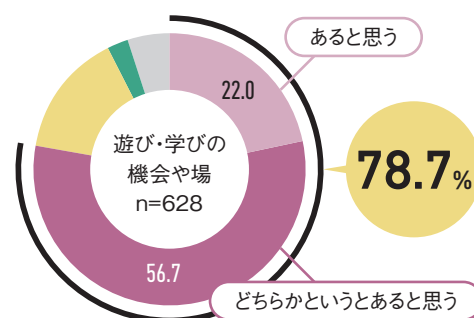
<sup>※</sup>「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査概要◇調査対象地区および調査票配布数/金沢区能見台1~6丁目、能見台通、能見台東、富岡西5~6丁目、片吹の1万世帯に配布、京急OBの18世帯に郵送◇調査実施方法/投函、留置、郵送回収における自記方式◇調査実施時期/2017年10月30日(月)~11月15日(水)※最終回収日 1月4日(木)◇回答回収数および回収率/641(回収率6.4%)※内無効回答13

### いま、求められること

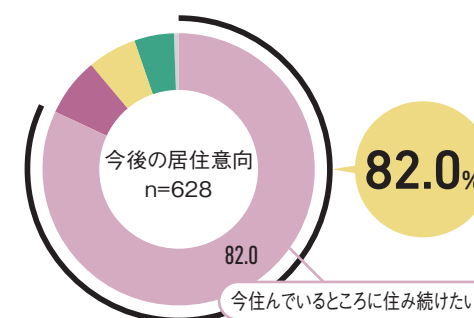
世代を超えたさらなる交流機会をつくりだすとともに、  
専門知識や技術をもった人たちがまちづくりの担い手として  
活躍できる場を創出していく必要があります。

#### 遊び・学びの機会や場に関する実感と今後の居住意向

遊び・学びの機会や場の有無



今後の居住意向



出典:「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査結果

遊びや学びの機会、場が多いと感じられています。環境の魅力も含めて、  
居住者の8割以上が今後も住み続けたいと考えています。





#### 4 交通利便性について

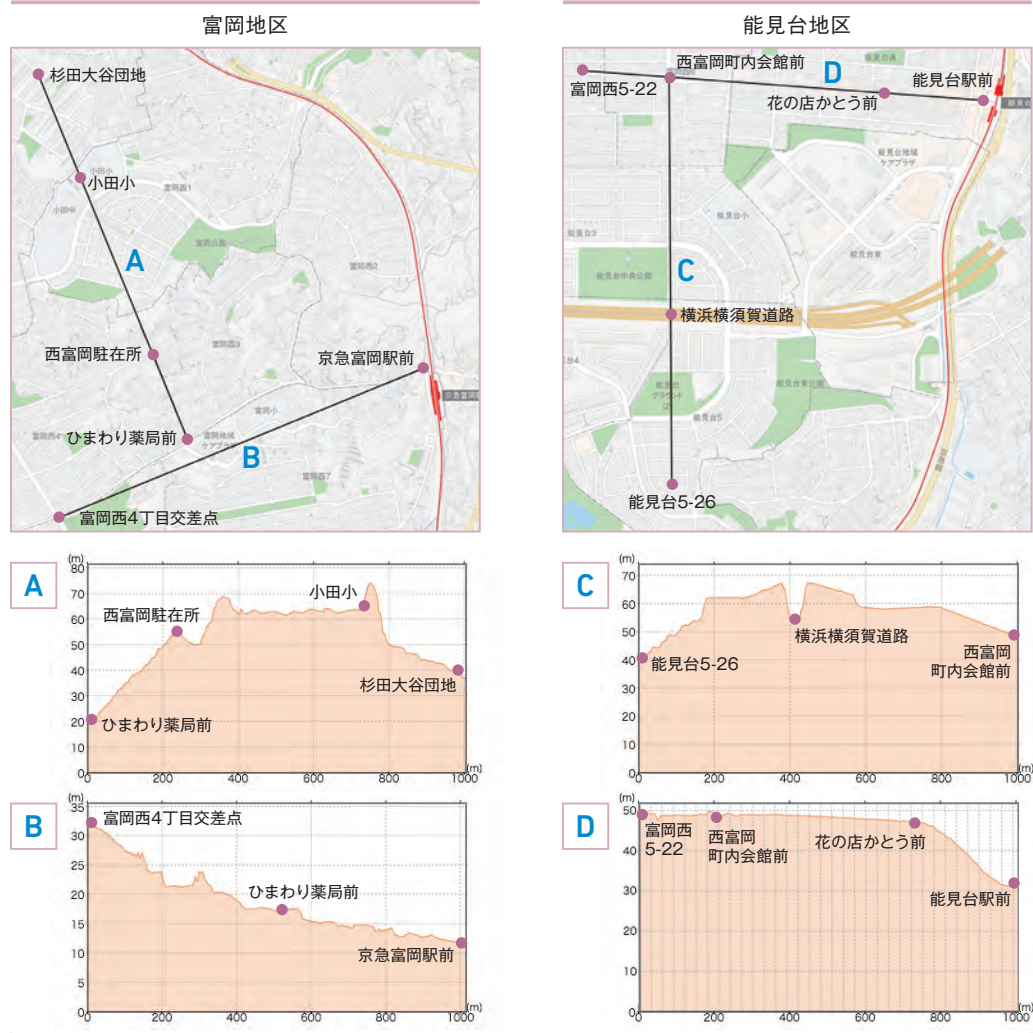
### 地区内の移動課題があります

高台の住宅地は、開放感がある一方で地形の高低差が大きく、高齢者の移動が困難な地区があります。また、交通不便地域も存在します。

#### いま、求められること

地区内の移動手段において改善が求められています。「とみおかーと実証実験」をはじめ、持続可能な新しい地域交通のあり方を模索していく必要があります。

富岡・能見台圏における各地区の地形断面図(高低差)



特に富岡地区は、地区内の高低差が大きく、勾配のきつい坂道が多く点在しています。

出典:国土地理院「地理院地図」

富岡・能見台圏の高低差のある風景



#### ワークショップで多く挙げられた意見(参考)

出典:富岡・能見台まちづくりワークショップ第1回のまとめ  
※グループワークのテーマ:まちの現状の良いところと気になるところを出し合おう



高齢者等の足となる移動手段が少なく、日々の生活でスーパー(買い物)や区役所へのアクセスが悪いこと等が指摘されています。



## 今後のまちづくり の進め方

地域にお住まいの皆さま、  
NPO等の市民活動団体の皆さま、  
そして民間企業の皆さま、  
このIMAGE BOOKを手にとってみて、  
なにを思いましたか。  
私たちは、皆さまと一緒に  
まちづくりを進めていきたいと考えています。

まちづくりには参加する方法がさまざまあります。  
例えば、  
このIMAGE BOOKの内容や取組を身近な人に共有する。  
それもまちづくりへの参加のひとつです。

まちづくりは、まだ始まったばかり。  
自分たちが住むまちの未来のために、  
まずは、ご自身ができることから始めてみませんか。  
小学生や中高生の皆さんも、みんな一緒に  
まちづくりの輪を広げていきましょう。



このIMAGE BOOKを読んだ感想、気づきを  
「#おかまち」でシェアしてほしい！



2021年度から

## いよいよ具体的な 取組が始まります！

まずは地域創発リーディングプロジェクトの実現に向けて取り組みます。  
各プロジェクトは、ワーキンググループや、プロジェクトチームが中心と  
なって検討を進めます。また、まちづくり懇談会は、今後も継続し、産官学民  
の四者でまちづくりを進めるための情報共有や意見交換、推進の場へと  
発展させていきます。各プロジェクトが互いの進捗状況を共有できるよう  
成果発表の機会等を定期的に設けていきたいと考えています。

地域創発リーディングプロジェクト(P.21~P.38)に関心のある方は  
運営事務局までお気軽にお問い合わせください。

また、取組全体、本書に関するご意見、ご感想もお待ちしています。

【お問い合わせ先】 運営事務局

E-mail : [machizukuri\\_c62@keikyu-group.jp](mailto:machizukuri_c62@keikyu-group.jp)

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課(8:45~17:15土日祝日除く) **045-671-2667**  
京急ご案内センター(平日 9:00~18:00/土日祝日 9:00~17:00) **045-225-9696**

発行日：2021年5月

発行：横浜市都市整備局・京浜急行電鉄株式会社

協力：まちづくり懇談会メンバーの皆さま(地域代表、商店会代表、学識経験者・有識者)

富岡地区、能見台地区で実施したワークショップにご参加いただいた皆さま

制作：株式会社京急アドエンタープライズ